

船橋市社会科セミナー通信 第190号

8.4土 報告

勉強会会場は、いつもの船橋市勤労市民センターで〈皆川征夫名誉会長の講演〉を開催しました。今回の出席者は、講師の皆川征夫名誉会長と会場担当で事務局長の富澤眞也（芝山西小）と佐藤一巳・野宮典子（浦安市浦安中）・大野肇（県立行徳高校）・石原智宏（金杉台中）・田邊順基（八千代市）・島根渉（鎌ヶ谷市教委）・森匡史（まさふみ・柏市）・石毛美由紀（松戸中部小）・関紀和（峰台小）・奈良明（敬愛大学）の各先生と会長の池田（長野県安曇野市在住）の合計13名。今回は目標の10名に達することができました。

今回の初参加は、奈良明先生と鎌ヶ谷から島根渉（鎌ヶ谷市教委）・森匡史（まさふみ・柏市）・石毛美由紀（松戸中部小）の4名が参加してくれました。奈良先生は皆川先生が千葉県社会科研究会会長の時に事務局長を務めた方でその縁で皆川先生の講演を是非聴きたいと参加してくれました。また、奈良先生はかつての千葉県社会科研究会会長で、船橋市・浦安市が平成24年に社会科の関東ブロック大会を開催した時に池田に関プロ大会を主催すると人材育成ができると勧めてくれた方でもあります。

その後の懇親会は、近くの居酒屋で藤木信弘さんも合流し8名が参加でした。

1本目：皆川征夫 名誉会長 講演

文責 池田義光

この10年以上毎年恒例になっている、〈皆川征夫名誉会長のご講演〉を今年も開催することができました。皆川先生には大変ご多忙の所今年も引き受けていただき大変ありがとうございます。

皆川征夫 名誉会長 講演記録

本題：アクティブラーニング、その他の学習指導法について

初めに

- 1 私は若い頃社会科教員として、学校教育特に社会科教育を通して人格形成を図ることは極めて重要なことと考えていた。
- 2 定年退職後に裁判所の民事調停員をやった。そこで次のようなことを感じた。
 - (1) 社会科では「裁判」のことは教えるが「調停」のことはほとんど教えていない。しかし、実際の社会では民事問題の法的解決のためには「裁判」よりも「調停」の方が多い。子どもたちにそのことを教え、もっと「調停」について教えるべきではないか。
 - (2) 民事調停員をしていて社会科がいかに重要かをさらに強く感じた
- 3 近年、「新しい歴史教科書をつくる会」などによって、「社会科教育や歴史教育の不要論」のようなことが言われることがあるが、私は社会科教育特に歴史教育は重要なものと思う。
- 4 ところが近年社会科授業のレベルが低下していないか心配になることがある。
- 5 社会科授業のレベルの向上は一人だけではなかなかできないと考え、かつていくつかの試みをした。
 - (1) 初任の頃、校外学習指導資料を作成している先輩（滝口先生）がいて一緒に勉強させてもらった。
 - (2) 船橋市の地域指導資料集を作りたいと思い、当時の社会科指導主事に働きかけて、船橋市教育委員会の「船橋市地域資料作成委員会」を立ち上げて、船橋の地域資料を作って船橋市の全中学校の社会科指導に役立てて貰おうとした。その作成委員会には若い意欲ある先生方が集まり、互いに切磋琢磨しあい指導力を向上させるための勉強会になった。小学校には市教委の社会科副読本『私た

ちの船橋』があり、その作成が編集委員の先生方の良い勉強会になっていたのも、中学校に、全校の社会科授業の向上と、核になる若い社会科教師の育成が必要と考えた。この時の経験が本会つまり「船橋市社会科セミナー」立ち上げの原動力になった。

本題：アクティブラーニング、その他の学習指導法について

- 1 今一番の学校教育の課題の一つに「学力向上」がある。その点で「アクティブ・ラーニング」が言われている。今回は「アクティブ・ラーニング、その他の指導法」についてをテーマに取り上げてみたい。
- 2 本題に入る前に「学びの構造」について触れておきたい
 - (1) 私が若い頃研究主任の時に、佐伯胖(ゆたか)先生の『学びの構造』という本から学んだ。佐伯胖(ゆたか)先生によれば、「学ぶ」には「覚える」と「学び」の二つがある。「覚える」は記憶するということで、忘れてしまうこともある。「学び」は一端学んだことが血肉になり残ることである。従って学んだことが単なる「覚える」だけでなく「学び」になるようにする必要がある。
 - (2) 「学紀の四為」というのがある。「蔵」「脩」「省」「游」の4つである。「蔵」は知識を蓄えること。「脩」は深めること。「蔵」「脩」は緊張した状態だが、「省」はリラックスした状態で身につけること。「游」は悠々と泳ぐ状態で、自然体で身につけること。
 - (3) これらを踏まえる必要がある
 - ① 調べる学習は大切だが、調べたことをそのまま発表するのでは、認識が深まらない。
 - ② プラトンによれば「知」は大切で知識があるだけでもないよりはいいのだが、その知が血肉になるようにしたい。
 - ③ もちろん知識をないがしろにした思考は駄目である。思考のためにもまず知識が重要で、その知識が血肉となり活用されることが大切である。
 - ④ 知識のあり方としては、試験のためにただ覚えていけばいいのではない。理解され、血肉となり活用され思考と結びつくことが必要である。
- 3 戦前の学習は「教授型の系統学習」だった。それは伝統的指導法で教師主導で行うものだった。教師主導なので系統的で分かりやすかった。授業速度が速くて知識を注入しやすかった。しかし、学習者である子どもにとっては受け身の学習で退屈な授業になりやすかった。
- 4 新学習指導要領の「アクティブ・ラーニング」「主体的対話的で深い学び」の重視には、最近の学習、特に大学・高校の授業における教授型・講義型一辺倒の指導法では学習が受け身になりやすいことに対する課題意識がある。
- 5 「アクティブ・ラーニング」「主体的対話的で深い学び」を考える上で、「問題解決学習・主体的学習」を把握すると参考になる。
 - (1) 戦後、社会科が誕生した時には、学習者の「主体的学習」として「問題解決学習」が行われた。これは児童・生徒の生活に教材を見つけ、身近な生活単元の学習を大きな社会に同心円的に拡大して行われた。
 - (2) 「問題解決学習」の特色としては
 - ① 学習者が主体的に学習に取り組み、思考力が付く
 - ② 学習者にとってやりがい・学びがいがある
 - ③ 教材開発が重要となる
 - ④ 学習課題の設定が重要
 - ⑤ 時間がかかり能率的ではない
 - ⑥ 知識の系統性が確保されにくいなどの特色をもった学習指導法であった。
 - (3) 「問題解決学習」の弱点指摘
 - ⑤⑥などの欠点や体験主義重視の学習という特色から「這い回る学習・這い回る社会科」と揶揄されることもあった。
- 6 「問題解決型学習」では、学習問題をどう設定すべきかが重要である。かつて船橋の青木章先生が行った「織田信長の授業」が参考になる
 - (1) 戦国時代を学ばせるに当たって中心概念をどう捉えるか。「下剋上と戦乱」を戦国時代の中心概念として、織田信長を中心教材とする。
 - (2) まず「織田信長の関連年表」を資料として提示し、その出来事(歴史的事象)のうち、創造・保存といえるものには○、破壊・打倒・廃止といえるものには×、そのどちらでもないものに△をつけさせる。例えば、「家督を継ぐ」→△、「桶狭間で今川義元を討ち取る」→×、「樂市樂座を認める」→○、「一向一揆と戦う」→×、「本願寺を攻める」→×、「浅井・朝倉連合を破る」→×、

「比叡山を焼き討ち」→×

- (3) この作業をしてみると、×が多いという結果が出た
×が多いという結果から、「信長はどんな人物か」考えさせた→信長は「破壊の英雄」が出てきた。
- (4) 「信長は何を破壊したのか」→戦国大名勢力(現行のライバル)、比叡山などの仏教勢力ら(旧勢力)、堺の町や商人や一揆宗など農民自治勢力(新興勢力)など、あらゆる勢力を打倒・破壊した
- (5) 「破壊の前後でどう変わったか」→堺の町は、以前は町衆(会合衆)による自治、事後は信長の支配下に。農民一揆が打倒される前は、農村は農民自治だが、事後は信長の支配
- (6) 「信長はなぜ破壊したのか」→下剋上と戦乱(戦国時代)を廃止して信長を絶対君主とする体制を作り、商業を盛んにしようとした(信長は「近世」を創造しようとしたとも言える)
(1)～(6)のように、「問題解決型学習」でこれだけの「学び」ができる

7 かつて、有田一正先生の授業を見た。海神小学校の児童との飛び込み授業だった。

(有田和正先生は、筑波大付属小から大学教授になった後も数々の授業実践を行い、「授業の達人」と言われた。特に社会科・生活科・総合的学習の実践をもとに多くの書物を著した。)

- (1) 海神小の社会科授業では、魚を5・6匹買ってきて児童に見せ、サンマとタイの比較をさせた。
→色(上が青で下が白、赤い)形(細い流線型、平べったい)など
- (2) 学習問題「なぜこれらの違いがあるのか」(事実認識から学習問題が自然に出てきた)
問題解決型学習には、学習者が解決したくなるような問題設定が重要
- (3) サンマなど回遊魚は速く泳ぐ必要があるので、流線型で、海の上を泳ぐので空中の鳥に狙われな
いために水に溶け込むような青色。タイなど海中深いところの魚は鳥に狙われな
いために目立っ
てもいいので赤くてもいい。
- (4) 「サンマとタイの漁法の違いは？」→サンマは海面近くの魚を捕る漁法。タイは海中深い所の
魚を捕る底網漁法。

こうした問題解決型学習を実施するためには、教師の教材研究が重要になる

8 安全性に関する授業

- (1) 細い道路と広い道路のどちらが事故が多いか、予想を答えさせる→子どもたちは広い道路の方が
事故が多いと予想するだろう。ところが正解は細い道路の方が事故が多い。
- (2) それはなぜか考えさせる(間違いやすい問題を出し、予想と違うことについてなぜかを「学習問
題」として考えさせる方法。予想がひっくり返ると自然に問題意識が沸き「学習問題」となる)
- (3) 両者の映像などで確認させる。細い道では歩道と車道の区別がない。事故を避ける設備が少ない。
広い道路には、車道と歩道の明確な区別や、ガードレールや、歩道橋などがある。

9 「発見学習」と「探究学習」

- (1) 「系統学習」は受け身の学習になりがちで学習者である子どもたちに不評だったために、「主体
的学習」の要素を取り入れた学習方法として「発見学習」が生まれた。「発見学習」は系統学習
と主体的学習の長所をとり、学習者が自らねらいを見いだす過程を重視する学習指導法。
- (2) 「発見学習」の精度を高めて、科学の過程を重視するのが「探究学習」

10 「完全習得学習(マスターラーニング)」

学習者にもっと注目し、学習者が目標に到達するための最適の環境を整えて学習を進めること。
適性処遇交互作用の理論であり、学習者の意識や性向等も考えた「個性化学習」が中心になる。
「個別化」と「個性化」は違う。「個別化」は個別に取り組むが全員の到達目標は同じ。「個性化」
は全員の到達目標が違い、学習者は個人別に好きな学習に取り組むので、個々人の学習意欲が高
まる。

11 江戸時代をどう教えるか

- (1) 学習指導のためには「中心概念」が何であるかを明確にすることが肝要である。江戸時代を教え
るなら江戸時代の重要な特色を教師が予め捉えておく必要がある。
- (2) そのためにマトリックス表を作成する方法がある。縦軸と横軸に江戸時代学習に欠かせない歴史
的事象を並べる。同じ事象が交差する所は斜線。それ以外の所は事象同士が関係していれば○、
無関係なら×を記入する。最も○の多い歴史的事象が、その時代の最重要キーワード(最重要特
色)である。
- (3) 「江戸時代重要事項マトリックス表」で最も○の多い最重要特色が「経済的事象」となる。つま
り江戸時代は「経済の時代」と言える。
- (4) そこで私は「経済の時代・江戸時代」を捉えさせるために、越後屋を創設した「三井高利」を教
材化した。
① 中学校教科書に出ている江戸日本橋の「越後屋」の店先の絵から、子どもに気づきをさせる。
② 「現金掛け値なし」「店先売り」「売り場制」などが出てくる。これらが三井高利の工夫であ

り、当時としては画期的な呉服販売商法であった。

- ③ 当時は、呉服は高級品で主な買い手は大名などの上級武士であり、店先販売はやらずに呉服屋の手代や丁稚などの使用人が武家屋敷に反物を持参して注文をとっていた。武士はその場で代金を支払わず、年に一度の年貢米収入を金に換えて現金を手にした頃支払うという「掛け売り」であった。それは呉服や反物が高価であったからであり、三井高利はそれをもっと安く販売するために、「現金掛け値なし」という商法や販売効率をあげるための「店先売り」を実行し、さらに後の百貨店の販売の先駆けとなる「売り場方式」を実行した。さらに当時は反物まるごと販売であったが越後屋は「端切れまで」商売のたねにしたから、下級武士や庶民まで購入することができるようになった。
- ④ 「三井高利の商法がなぜうまくいったのか」→当時江戸の人口は百万人という世界の巨大都市であり、そのほとんどが（農民などの生産人口でなく）消費者という巨大消費地であったことに目をつけ、一部の上級武士だけでなくもっと幅広い層の消費者が購入できるように工夫したから

12 私の若い頃「範例学習」という学習指導法が導入された

- (1) 教材や学習内容の「精選」の必要性が叫ばれており、「精選」という観点から、千葉大の菊池教授がドイツの哲学を背景とした地理学の指導法から「範例学習」を取り入れて、千葉大付属中（鳥海・粒良・滝口先生）や東金小中で公開研究した。後に東京書籍の地理教科書などにも取り入れられた。
- (2) 主に地理学習で、「一般的共通性と地方的特殊性」に着目させて、分布・競合・距離・歴史的背景・社会的や自然的条件などについての地理的能力の育成を図ろうとした。
- (3) 例えば、日本の畑作農業を学ばせるには「三大畑作地帯」を比較させ、「一般的共通性と地方的特殊性」に着目させた。

	[鹿児島・宮崎のシラス台地]	[関東平野]	[十勝平野]
共通性	火山灰のシラス台地畑作中心地域	火山灰の関東ローム畑作中心地域	火山灰の平野畑作中心地域
特殊性	サツマイモ	生鮮野菜	ジャガイモ・小豆・テンサイ

- (4) 「特殊性」の原因を考えさせる

特殊性の原因	大消費地に遠い、暖かい気候	大消費地に近い	大消費地に遠い、寒い気候
--------	---------------	---------	--------------

- (5) 近年どのような変化が見られるか

[鹿児島・宮崎のシラス台地]でも[十勝平野]でも生鮮野菜を作るようになった

- (6) 近年の変化の原因を考えさせる

交通(高速道路)・運搬(大型トラック輸送)や保冷技術(保冷車)などの進歩により、大消費地まで生鮮野菜が新鮮なまま運べるようになった。

- (7) さらに進歩により、海外からも生鮮野菜が輸入されるようになってきている

13 「事例学習(サンプルスタディ)」の研究と実践

「範例学習」に対し、「事例学習」が導入され、私もその紹介の一翼を担った。

- (1) 朝倉竜太郎教授が、イギリス型の範例学習として紹介した。
- (2) ドイツ型の「範例学習」は形式陶冶に基づいているので「転移」が重要だが、イギリス型「事例学習」は実質陶冶に基づいているので「転移・応用」の必要はない。
- (3) 教える内容に対してその典型的な教材を選ぶことが肝要。
- (4) 例えば、歴史では、小学校の社会科教科書では奈良時代を教えるのに「奈良の大仏」を教材化して教えている。「奈良の大仏」が「奈良時代の特色に迫る典型的な教材」であることが必要なのである。
- (5) 日本人の生活を教えるのにどうするか。
- ① まず日本人の典型的な生活を取り上げ教材化する必要がある。例えば、「甲府のある兼業農家」を選ぶ。
- ② 次に、「甲府のある兼業農家」の家の構造、生活様式、宗教と考え方など、詳細に学ばせる。
- ③ それらの学習をとおして、「日本人は自然と適合・調和して生活していること」「日本人は合理的に判断して生活していること」などを学ばせる。

14 「範例学習」「事例学習」の両方の良さを加味した学習指導を!

- (1) 「範例学習」「事例学習」とも、学習内容が多いためにあれもこれも教え込む指導への対策として、学習内容や教材の精選を図り、少ない学習内容・教材でも、必要な学力をつけていこうという試みである。そこでこの両者の良さを加味した学習指導法を考えたい。
- (2) 例えば、歴史学習で「近代」を教える場合

- ①教師はまず「中心概念」を捉える視点から「近代とは何か」近代の特色を捉える必要がある
近代とは、民主主義と国民国家、産業革命と大量生産、近代的軍隊と植民地から始まった。
- ②ヨーロッパの近代とアジアの前近代との関係を考える。そこから法則性を考える。
法則「ヨーロッパの近代とアジアの前近代が衝突すると近代文化が前近代文化を吸収する」
- ③ヨーロッパ近代文化に対する、インド・中国と日本の対応の違いは何か？考えさせる
日本はヨーロッパ近代文化を積極的に取り入れた。インド・中国は戦争に敗北した結果植民地化してこれを受け入れざるを得なかった。

15 ディベートという学習指導法

ディベートでは反証が肝要である。学習の結果、多数決で判定させるのはおかしい。ディベートはアメリカ発祥だが、アメリカでも廃れてしまった。

16 「事例研究」方式の学習指導案をつくってもらいたい

- (1)特に公民に有効
- (2)隣接する2軒の家。A家の柿木が塀を超えてB家まで枝を伸ばしている。Bに入った枝の実はいずれA家B家どちらのものか、考えさせる。
- (3)この事例が裁判になったら、どうなるか考えさせる
- (4)こういうケースは法(民法)に解決が決められている。柿の実はいずれA家の果実(利子)としてA家の物となる。一方、A家の竹から塀を越えてB家に筍が出たケースなら筍はB家の物となる。

17 福祉の問題は主体的学習がしやすい

福祉を重視すれば負担が増えざるをえない。一方負担を増やしたくなくれば福祉を抑える必要がある。→どっちがいいかを学習問題として学習者に考えさせることができる。

18 まとめとして、

- (1)「アクティブ・ラーニング」「主体的・対話的で深い学び」が求められている現在、その実践をすることは重要である。しかしすべての授業を「アクティブ・ラーニング」「主体的・対話的で深い学び」でやらなければならない訳ではない
- (2)「アクティブ・ラーニング」が求められるのは、「教授型の系統学習」ばかりでは学習者が受け身になり学習意欲を失いがちになるから、それを補うために「主体的・対話的で深い学び」が求められるのである。「教授型の系統学習」には知識を系統的に効率的に学ばせられるというこの学習指導法の長所がある。従って両方の学習指導法をうまくバランスをとって行くのが良い。
- (3)とにかく、日常の授業すべてを「教授型の系統学習」にせず、できるところから「アクティブ・ラーニング」などの「主体的学習」の実践をしていくことである。

平成30年9月セミナー予定 9月15日(土)

<勉強会>は、船橋市勤労市民センター **1時** 集合

- 1. 知っ得ニュース (池田義光)
- 2. 池さんの歴史ナルホド (池田)
- 3. 日本史豆知識 (池田)
- 4. その他 (報告者募集中!)

※終了後 船橋駅周辺で 4:45頃から<懇親会>

⇒出欠席をできれば、2週間前までに池田宛てにお知らせください

お知らせ: 社会科セミナーのホームページは <船橋市社会科セミナー> で検索ができます!

本セミナーのお知らせは、このホームページで行います。「次回の社会科セミナーのお知らせ」や「社会科セミナー通信のバックナンバー」「韓国見聞録」や「ベトナム見聞録」も公開されておりますので是非ごらんください。